

## <第 88 回 HSE セミナー 講演内容>

### ■テーマ：「人口減少化の薬局ビジョン」

#### ■講師：串田 一樹 氏（昭和薬科大学 地域連携薬局イノベーション 特任教授）

「報酬に頼らない経営を」という大きな方向転換がいま求められている。いままで門前のクリニックに頼ってきたビジネスモデルであったが、これからは「地域」に目を向けたマーケティングが求められる。いままで外来に来ていた患者がいきなり来なくなる。気がつくやうな薬局が在宅で入っていた。そんなことは「かかりつけ薬剤師」制度のもとでは許される話ではない。「かかりつけ薬剤師」は、いま「種」がまかれたばかりであり、芽が出て花が咲くのは、2020年、2025年の話である。だからこそ、きちんと芽が出て花が咲くような土壌を用意したいと思う。窓口から、在宅医療、そして看取りへとどう取り組んでいくのか。そこに薬局薬剤師のやりがいがある。

#### <講師紹介>

昭和薬科大学地域連携薬局イノベーション講座特任教授。高齢社会の到来によって薬局は在宅医療への参画が求められ、慢性疾患の高齢者から、がんの緩和ケアの患者まで、薬剤師は様々な状況にある在宅療養者を支えている。しかしながら、一方で、処方せんを断る薬局があるため、HIP（Home Infusion Pharmacy）研究会を立ち上げて、「処方せんを断らない」薬局の支援をしている。

### ■テーマ：「たべること、いきること」～最後まで食べられる街づくり～

#### ■講師：五島 朋幸 氏（ふれあい歯科ごとう 代表 歯科医師）

人は誰しも「食べる」ということを楽しんでいるのではないだろうか。「食べる」ということは生きるためにもっとも大切な行為の1つである。近年、胃ろうに対する考えが見直され、「最後まで口から食べる」ことが提案されている。その中心に歯科医師と管理栄養師がいる。低栄養とフレイルが昨年より注目されているが、共通しているのはともに「口」である。「オーラルフレイル」（口の弱り）が筋肉を弱体化（フレイル）と低栄養を招いている。次世代の薬局の取り組みとして、この「食べることへの支援」があってもいいのではないかと。特に薬局管理栄養師！

#### <講師紹介>

新宿食支援研究会代表。1997年より訪問歯科診療に積極的に取り組む。2003年、ふれあい歯科ごとうを開設。地域ケアを自身のテーマとし、さまざまな試みを行い、理想のケアのかたちを追求している。2003年よりラジオ番組「ドクターごとうの熱血訪問クリニック」パーソナリティーも務めている。日本歯科大学生命歯学部臨床准教授、東京医科歯科大学、慶応大学非常勤講師など役職多数。著書『愛は自転車に乗って 歯医者としてスルメと情熱と』、『口腔ケアOとX』、『食べることで生きること — 介護予防と口腔ケア』（監修・共著）、『安全においしく食べるためのガイドブック』（共著）など。現在、「ドクターごとうの食べるラボ」（FM調布にて放送中）

### ■テーマ：「強い組織を創るHRD（Human Resource Development）」

#### ～従業員を戦略的資源へと変える教育研修とは～

#### ■講師：川村 和美 氏（シップヘルスケアファーマシー東日本㈱ 部長/主任研究員）

基準調剤加算の開局時間に縛りが出来たことで、薬局（会社）での研修への取り組みが難しくなってきた。しかしながら、求められることをクリアするためには、従業員への意識浸透を図った研修が必要になる。これは完全なる矛盾である。強い企業はやはり「組織」が強い。組織が強いということは、そこに属する「ヒト」が強いということである。従業員に思い描く姿をどのように理解させ、また行動を起こしてもらうのか。研修は知恵をつけるだけでなく、各店舗に散らばった戦士たちが仲間意識を強める場でもある。薬局は「個」の時代から「組織」の時代へと変わったことを理解したい。「個」が強いだけでは、厳しい時代はのりきれない。

#### <講師紹介>

名城大学大学院薬学研究科卒業後、桔梗ヶ原病院にて勤務。浅岡病院薬局長を経て、2003年㈱スギ薬局入社。2008年同社医療教育部主任研究員に就任。2012年スギホールディングス㈱人材開発部主任研究員に就任。2012年11月に㈱仙台調剤に入社。教育研修部部長/主任研究員に就任。2013年より現職。「薬剤師と薬と倫理」（じほう社）など多数執筆。